

2026. 5.12

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

# 2025年度決算説明

東洋紡株式会社

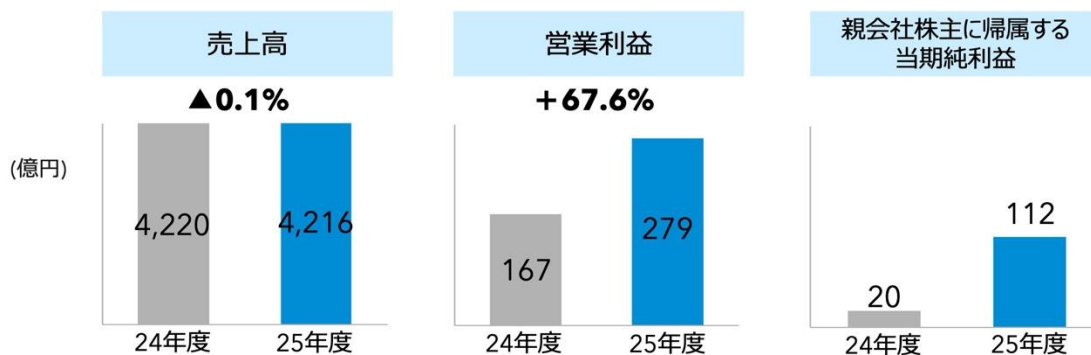
皆さん、こんにちは。東洋紡の竹内でございます。本日は、弊社の決算説明会にご参加賜り誠にありがとうございます。それでは、資料に従いご説明申し上げます。

## 決算のポイント

TOYOB0

### 2026年3月期 通期実績

ライフサイエンスは減益も、フィルム、環境・機能材、機能繊維・商事の各セグメント堅調により大幅増益。  
営業利益は前年度比1.7倍の279億円、当期純利益は112億円



### 2027年3月期 通期予想

中東情勢緊迫化に伴い事業環境の見通しが立ちにくい状況であり、事業への影響を適正かつ合理的に算定することが困難なため、連結業績予想は現時点では未定

2

決算のポイントです。2025年度決算は、ライフサイエンスは減益でしたが、フィルム、環境・機能材、機能繊維・商事の各セグメントは堅調により、大幅増益となりました。特にフィルムの増益が大きく貢献しています。

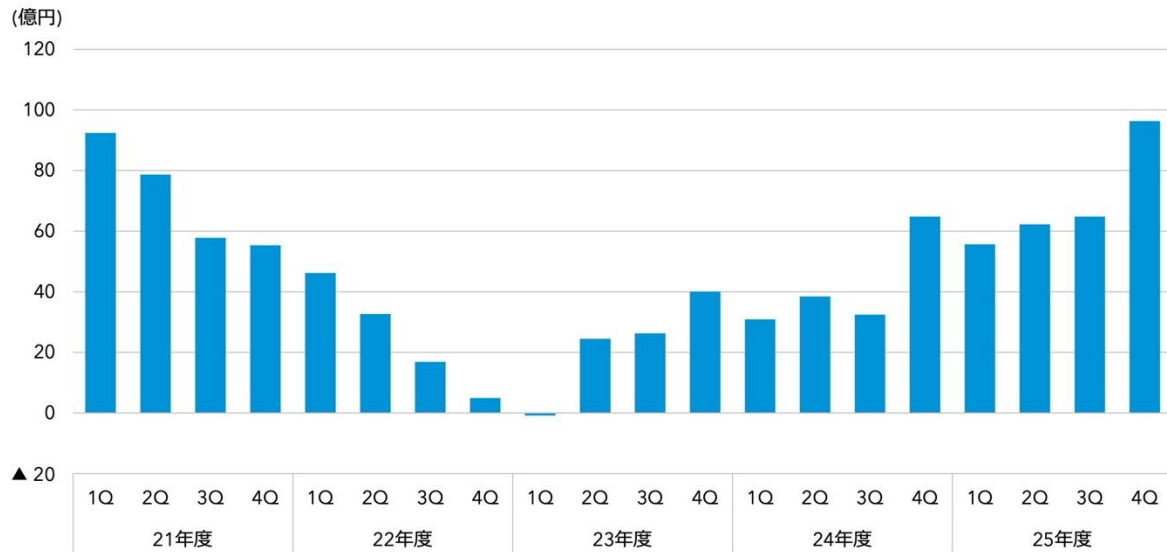
営業利益は、前年度比1.7倍の279億円、当期純利益も大幅増益の112億円となりました。

私どもは、2025年度は、「未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す」の経営方針で臨んでまいりましたが、今回の決算においては稼ぐ力の回復を確認できたと考えています。

2026年度については、ここに記載のとおり、現時点で中東情勢の緊迫化に伴い事業環境の見通しが立ちにくいことから、事業への影響を適正かつ合理的に算定することが難しいため、連結業績予想については現時点では未定とさせていただきます。

## (参考) 四半期別営業利益推移

TOYOB0



3

先ほど稼ぐ力の回復を確認したと申しましたが、こちらに四半期ごとの営業利益の推移をお示ししています。

2021年度とほぼ同じか、それを超える水準まで戻ってきていますが、その中身は大きく異なります。2021年度はコロナ影響の中で原燃料価格が相当低い水準にあり、PCR関係で相当の特需がありました。今は、事業環境が大きく変わった中で、着実に利益、稼ぐ力を回復しています。

# 決算サマリー | PL

TOYOBO

						(億円)	直近予想 (26/02)
	23年度	24年度	25年度	増 減			
				金 額	率		
売上高	4,143	4,220	4,216	▲ 5	▲0.1%	4,300	
売上総利益	880	971	1,082	+111	+11.4%	-	
(率)	21.2%	23.0%	25.7%	-	-	-	
営業利益	90	167	279	+113	+67.6%	240	
(率)	2.2%	3.9%	6.6%	-	-	5.6%	
営業外損益	▲ 20	▲ 61	▲ 50	+10	-	-	
経常利益	70	106	229	+123	+116.0%	195	
特別損益	▲ 14	▲ 34	▲ 35	▲ 1	-	▲ 47	
親会社株主に帰属する 当期純利益	25	20	112	+92	-	85	
EBITDA*	* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)	288	394	525	+132	+33.5%	485
EPS (円)		27.9	22.7	126.7	-	-	96.4
ROE*	* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本	1.3%	1.0%	5.5%	-	-	-
ROIC*	* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)	1.3%	2.3%	3.8%	-	-	-

■ 配当は、一株あたり 40 円

4

決算のサマリーです。先ほど申したように大幅増益となっていますが、売上総利益率が着実に改善しています。それから、販管費は、ほぼ横ばいに抑制できたため、営業利益はそのまま増益となりました。

営業利益の内訳については、後ほどもう少し詳しく申し述べます。

経常利益は 229 億円でした。当期利益は 112 億円で、結果として、ROE は 5%を超えることができました。

## 営業外損益・特別損益

TOYOB0

### 営業外損益 内訳

(億円)

	24年度	25年度	増 減
為替差益	-	5	+5
受取補償金	6	0	▲ 6
その他	26	22	▲ 4
営業外収益 計	32	27	▲ 5
支払利息	22	29	+7
為替差損	7	-	▲ 7
その他	64	48	▲ 16
営業外費用 計	92	77	▲ 15
営業外損益 計	▲ 61	▲ 50	+10

### 特別損益 内訳

(億円)

	24年度	25年度	増 減
固定資産売却益	7	13	+6
関係会社株式・出資金売却益	15	3	▲ 12
投資有価証券売却益	1	5	+4
その他	-	1	+1
特別利益 計	23	22	▲ 2
減損損失	19	4	▲ 15
固定資産処分損	37	26	▲ 11
割増退職金	-	12	+12
退職給付制度改定損*	-	9	+9
その他	1	6	+4
特別損失 計	58	57	▲ 1
特別損益 計	▲ 34	▲ 35	▲ 1

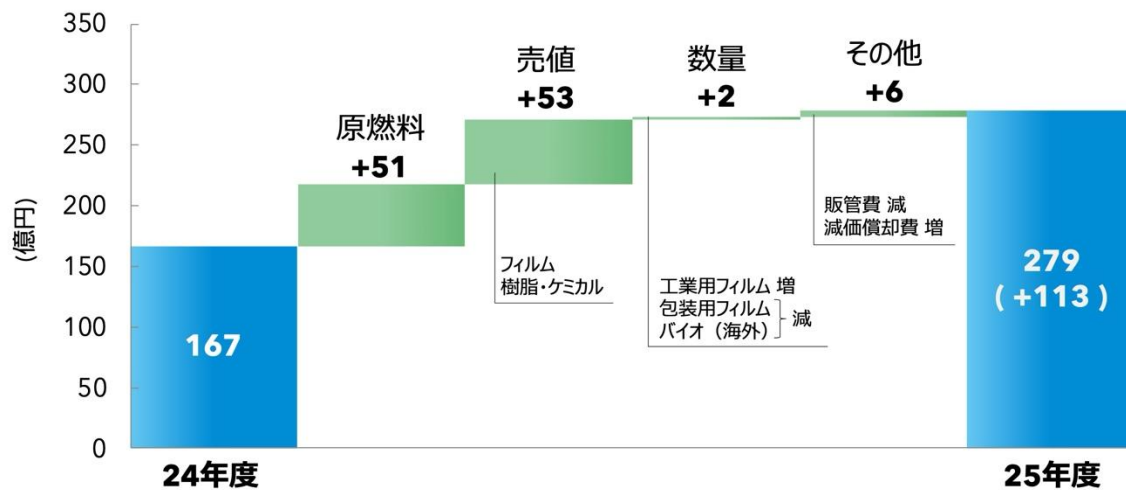
\*一部の連結子会社において退職給付制度の一部を廃止

5

営業外損益・特別損益の内容です。この中では大きな動きはありませんでした。

## 営業利益の増減要因

TOYOBO



	24 年度			25 年度		
	上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	152	152	152	146	155	151
国産ナフサ (千円/kl)	78	74	76	65	66	65

6

営業利益の増減要因をご説明します。

原燃料については下の表に記載したとおり、国産ナフサ価格が24年度に比べて25年度は下がりました。実際にはタイムラグがあるので全部が効いているわけではありませんが、51億円の増益要因になりました。

一方、売値については、2021年後半からの原燃料価格高騰の影響で、相当コストが上がったことで、お客様に無理を申して価格を見直してきたのですが、この25年度も引き続き価格転嫁を進めた効果がありました。中でも、フィルム、樹脂・ケミカルにおいて効果が大きくなりました。

数量については、2億円とあまり変動がありませんでしたが、中身的には工業用フィルムのセラコン用離型フィルムが堅調であった一方で、包装用フィルムは末端の商品の価格上昇に伴い数量がやや後半に低迷しました。バイオは、海外向けの数量が減少しました。

その他については、これまでの積極的な投資で減価償却費が19億円増えましたが、試験費ほか販管費の抑制に努めたことで、6億円となりました。

## 決算サマリー | BS

TOYOB0

	(B)		(A)	(億円)
	24/3末	25/3末	26/3末	増 減 (A)-(B)
総資産	6,070	6,178	<b>6,277</b>	+99
現預金	338	286	<b>311</b>	+25
売上債権	1,028	1,062	<b>1,017</b>	▲ 45
棚卸資産	1,220	1,190	<b>1,281</b>	+91
有形固定資産	2,815	2,965	<b>2,999</b>	+34
純資産	2,301	2,320	<b>2,520</b>	+200
自己資本	1,970	1,953	<b>2,133</b>	+180
うち利益剰余金	703	690	<b>762</b>	+73
非支配株主持分	331	367	<b>387</b>	+19
有利子負債	2,492	2,679	<b>2,610</b>	▲ 69
D/E レシオ	1.26	1.37	<b>1.22</b>	-
D/E レシオ（資本性調整後）*	-	1.15	<b>1.03</b>	-

\* 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

7

BS です。次の資料で触れますが、フリー・キャッシュ・フローの黒字化により借入金が減少し、D/E レシオも改善しました。

一方、棚卸資産が期末にかけて増えました。備蓄を目的として増えた部分も一部にありますが、全体としては棚卸資産が多いという課題認識を持っています。

	(億円)		
	24年度	25年度	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	301	<b>450</b>	+149
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 464	<b>▲ 271</b>	+193
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 163	<b>180</b>	+342
財務活動によるキャッシュ・フロー	105	<b>▲ 165</b>	▲ 270
その他	▲ 1	<b>13</b>	+14
現金及び現金同等物の増減額	▲ 59	<b>27</b>	+86
現金及び現金同等物の期末残高	274	<b>301</b>	+27
減価償却費	227	<b>246</b>	+19
設備投資	432	<b>290</b>	▲ 141
研究開発費	143	<b>141</b>	▲ 1

キャッシュ・フローです。この3年間、積極的に投資をしてきましたが、設備投資が25年度にピークアウトしました。

営業キャッシュ・フローが増えたことで、フリー・キャッシュ・フローが2020年度以来、5年ぶりの黒字になりました。



## 決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

	売上高		営業利益			直近予想 (26/02)
	24年度	25年度	24年度	25年度	増 減	
フィルム	1,668	<b>1,752</b>	69	<b>166</b>	+97	145
ライフサイエンス	343	<b>345</b>	20	<b>1</b>	▲ 19	10
環境・機能材	1,108	<b>1,101</b>	80	<b>97</b>	+17	87
機能繊維・商事	981	<b>896</b>	5	<b>13</b>	+7	11
不動産・その他	120	<b>122</b>	26	<b>32</b>	+6	22
消去・全社	-	-	▲ 33	▲ <b>29</b>	+4	▲ 35
合計	4,220	<b>4,216</b>	167	<b>279</b>	+113	240

セグメント別の動きです。詳しくはそれぞれのページで申し上げますが、全体感としては、大幅増益の中で貢献が大きかったのがフィルムでした。環境・機能材も堅調でした。一方で、ライフサイエンスは、新ラインの立上げが遅れた影響などにより、大幅な減益になりました。

## セグメント別 アクションプランの結果

TOYOBO

セグメント	アクション（当初計画）	結果*
フィルム	<b>■包装用フィルムの収益改善と工業用フィルムの更なる拡大</b> ・包装用フィルム：生産体制見直し、新ライン稼働率アップによる収益改善（黒字化） ・セラコン用離型フィルム：新機台の確実な立ち上げ ・液晶偏光子保護フィルム：増産体制の確立	○ ○ ○
ライフサイエンス	<b>■新ラインの確実な収益化</b> ・バイオ：生化学診断薬用原料酵素の拡販（増産効果） ・メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立上げ・収益化、プロセス膜事業化 ・医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注による収益改善（黒字化）	▲ ▲ ○
環境・機能材	<b>■東洋紡エムシー（株）：経営基盤の強化から成長策実行へ</b> ・エンジニアリングプラスチック：海外需要の取り込みと、収益改善 ・工業用接着剤“バイロン”：新用途開拓と、収益改善 ・環境ソリューション：BC膜*の販売拡大、VOC回収装置の新用途開拓 ・不織布マテリアル：国内生産体制の見直し（黒字化目途）	○ ○ ▲ ○
機能繊維・商事	<b>■収益改善と資産効率の向上</b> ・エアバッグ用基布：収益改善のロードマップ実行 ・衣料繊維：資産効率の改善	○ ○

\* ○：計画通り、▲：遅れ

10

セグメント別のアクションプランの結果をお示しします。

フィルムについては、包装用フィルムの収益改善がしっかりとできたことと、工業用フィルムの設備が順調に立ち上がってきていることの効果が出てきています。

ライフサイエンスについては、新ラインの確実な収益化を掲げたのですが、バイオ、メディカル、それぞれの設備投資効果が25年度ではしっかりと発現できませんでした。医薬品製造受託は改善が進みました。

環境・機能材、主に東洋紡エムシーは、経営基盤の強化から成長策実行へと掲げていました。経営基盤は着実に整備され、利益はしっかりと改善してきましたが、成長策はまだ海外向けで課題が残っています。

機能繊維・商事については、資産効率を重視した運営を進めてきました。エアバッグはまだ赤字ですが、しっかりと黒字化のロードマップに沿って改善が進み、また、衣料繊維は引き続き資産効率を上げたため、利益も増えました。

	24年度			25年度			通期 増減		直近予想 (26/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	828	840	1,668	865	886	1,752	+83	+5.0%	1,770
営業利益	30	39	69	86	80	166	+97	+140.4%	145
(率)	3.6%	4.6%	4.1%	10.0%	9.0%	9.5%	-	-	8.2%
EBITDA	78	88	166	136	136	273	+106	+63.7%	-

## 包装用フィルム

- 食品価格高騰を背景として荷動きは低調に推移。新設備の生産性改善を進め、収益が改善

## 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、AIサーバー向けを中心に販売が拡大

フィルムです。今回、大きく増益に貢献しました。

包装用フィルムは、減収増益でした。減収の要因は、食品価格が上昇したことで荷動きが低調になったことです。一方で、新設備の立上げに相当苦勞をしていたところ、生産性の改善にめどがつかしました。その結果、収益が大きく改善しました。

工業用フィルムは、増収増益でした。液晶偏光子保護フィルム“コスモシャイン SRF”は引き続き堅調で、旺盛な需要が続きました。セラコン用離型フィルムは、約3割の数量増となりました。加えて、半導体向けのフィルムも堅調でした。

	24年度			25年度			通期 増減		直近予想 (26/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	172	171	343	165	180	345	+2	+0.4%	360
営業利益	9	11	20	1	▲ 1	1	▲ 19	▲ 96.8%	10
(率)	5.3%	6.5%	5.9%	0.9%	-	0.2%	-	-	2.8%
EBITDA	25	28	53	21	20	41	▲ 12	▲ 21.8%	-

### バイオ

- 診断薬用原料酵素の需要は堅調に推移も、診断薬用試薬は中国市況の影響により販売が低調。海外拠点における販売減少も重なり、収益は悪化

### メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は、販売が堅調に推移も、新工場の立上げに遅れ

### 医薬

- 製品価格の改定により、収益が改善

12

ライフサイエンスです。今回大きく減益となりました。

バイオは、微増収大幅減益でした。健康診断に使用される診断薬用原料酵素や、遺伝子の診断薬用試薬の事業ですが、酵素の製造設備が24年度に立ち上がっています。しかし、海外から輸入している原材料が、天候不順などの影響により大幅に価格が上昇し、また、設備の立上げにおけるトラブルもありました。更に、試薬では、感染症診断の需要が落ちたこと、中国市況の悪化の影響を受けました。加えて、海外の販売拠点の落ち込みもあり、全体として大きく落ち込みました。現時点では設備の生産状況は大きく改善してきており、26年度以降は改善に向かうと考えています。

メディカルは、増収減益でした。需要が非常に強い中で、新工場がかなり先進的な製造プロセスを採用したことから、立上げに苦労しました。現時点では生産性が改善してきており、26年度は改善に向かうと考えています。

医薬については、価格改定と生産性の安定により、大きく改善しました。

## 環境・機能材（主に東洋紡エムシー(株)）

TOYOBO

	24年度			25年度			通期 増減		直近予想 (26/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	552	556	1,108	507	594	1,101	▲ 7	▲0.6%	1,110
営業利益	34	46	80	31	66	97	+17	+21.9%	87
（率）	6.1%	8.3%	7.2%	6.0%	11.2%	8.8%	-	-	7.8%
EBITDA	56	69	125	53	89	142	+18	+14.1%	-

### 樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、主に自動車用途の販売が増加
- 工業用接着剤“バイロン”は、塗料・接着用途に加え、電子材料用途の販売が増加

### 環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、EV市場減速の影響により、LIBS\*製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少
- 高機能ファイバーは、国内向け販売が堅調に推移
- 不織布マテリアルは、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善

\*リチウムイオン電池セパレータ

13

環境・機能材、主に東洋紡エムシーです。基盤整備が着実に進みました。収益も着実な改善が見られました。

樹脂・ケミカルは、減収増益でした。エンジニアリングプラスチック、工業用接着剤は、主要な用途での販売が順調に進みました。

環境・ファイバーは、環境ソリューションが、EV 関係の LIBS 製造工程で使用される VOC 回収装置が落ち込みましたが、高機能ファイバーが堅調でした。また、不織布マテリアルは、国内生産体制を見直し、一部の生産ラインを休止したことにより、固定費を削減し収益が改善しました。

	24年度			25年度			通期 増減		直近予想 (26/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	479	501	981	444	452	896	▲ 85	▲ 8.6%	940
営業利益	1	4	5	2	11	13	+7	+132.4%	11
(率)	0.2%	0.9%	0.6%	0.4%	2.4%	1.4%	-	-	1.2%
EBITDA	14	18	31	15	25	40	+8	+26.6%	-

### 衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要に加えて円安の影響もあり、販売が増加
- スポーツ用途は、国内生産拠点を集約

### エアバッグ用基布

- 日系顧客におけるアジアでの減産影響を受けたが、コストダウンにより収益性が改善

14

機能繊維・商事です。減収増益でした。引き続き、資産効率重視として、分野を絞り込んで運営していきます。

衣料繊維は、中東向け特化生地が25年度は出荷が好調でした。26年度は、中東情勢の悪化に伴い、出荷の滞りやオーダーの遅れといったことが想定されます。26年の懸念材料です。

エアバッグ用基布は、25年度前半は自動車の減産による影響を受けましたが、後半は持ち直し、全体としては、ほぼ横ばいでした。一方で、固定費の圧縮を含めた拠点の整備を進めたため、引き続き赤字ではありますが、大きく収益性が改善し、黒字化にめどがつかしました。

以上が、25年度の業績の内容です。



- 中東地域における情勢不安の長期化により、石油・ナフサ由来の原材料等の供給の停滞や価格の高騰などの影響が予想されます
- 中東情勢緊迫化に伴い事業環境の見通しが立ちにくい状況であり、事業への影響を適正かつ合理的に算定することが困難なため、連結業績予想および2027年3月期の配当予想については、現時点では未定とさせていただきます
- 今後の動向を見極めながら、適正かつ合理的な算定が可能になった段階で、速やかに公表いたします

業績見通しです。冒頭申し上げたとおり、現時点では見通しが立ちにくいことで、今回、業績予想および配当予想については未定とさせていただきます。今後の動向を見きわめながら、適正かつ合理的な算定が可能になった段階で速やかに公表します。

26年度の業績見通しについて、少し補足します。

まず、交易条件は、ナフサに依存する事業が多いため、ナフサの感応度でご説明します。従来、1,000 円/kl の国産ナフサ価格の上昇に対し、5 億円の影響があるとしていましたが、現在は、数量が大きく落ちてきているため、1,000 円/kl に対して 3 億円の影響となっています。つまり、25 年度の国産ナフサ価格 7 万円弱/kl から 5 万円/kl 上昇した場合、150 億円のコストアップ影響ということです。ただし、26 年度の年初から上昇しているわけではなく、期ずれやタイムラグがありますので、それを勘案し、コストアップ影響は約 100 億円と考えています。

価格転嫁については、過去、22 年度以降の原燃料価格上昇の際に、見直しが遅れたという反省があります。今回は 4 月から、見直しをお客様にお願いしています。事業環境といいますか、世の中の地合いが変わってきており、受け入れていただける余地が増えてきています。タイムラグがある原燃料価格の上昇に対し、タイムリーな価格転嫁を進め、交易条件の悪化による収益への影響を最小限に食い止めていきます。

一方で、数量は不確定要因です。原材料が調達できないリスクと、お客様が生産できないリスク、価格上昇による最終消費者の需要の落ち込みのリスク、複数の要因が絡み合うため、数量が読みにくくなっています。

何よりも、中東情勢の見通しがつかない段階にあり、日本全体のナフサのうち中東からの輸入が約 4 割、その他原油からの精製によるナフサが約 4 割とすれば、マクロで見れば理論的には半分しか調達できません。今は、政府を含めていろいろな対応をされている中にあり、もう少し増えるか

もしれませんが、いずれにしろ数量面で約半分が足りない可能性を考えると、今後の見通しはつ  
けづらくなっています。

なお、固定費については、積極的な投資をしたことで、減価償却費が25年度に対して26年度  
は約40億円上昇する見通しです。

以上により、限界利益が数量の部分で不透明であることから、業績見通しを未定とさせていただきます。



**未来をつくるために稼ぐ力と資産効率を高める**

1. 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底（大前提）
  2. 投資成果の実現（設備投資、開発投資）
  3. 価値に見合ったプライシングの徹底
  4. 資産効率改善（課題事業対策、CCC短縮）
  5. 投資・経費の絞り込み、TX\*具体化、コストダウン
- + 地政学リスクへの緊急対応（レジリエンス強化）

\*Toyobo-Transformation

**ワンチーム経営で取り組む**

16

このような状況ではありますが、26年度は経営方針に、4月にご説明した2030中期経営計画の初年度として「未来をつくるために稼ぐ力と資産効率を高める」と掲げ、進めてまいります。

経営の課題として、ROEをいかに上げるか、投資家の皆様からのお声に応えるべく、資産効率を高めることを経営方針にあらためて加えました。

それを実現するために、5つのアクションプランを掲げました。事業環境が厳しい折ですが、大前提としては安全・防災、品質、コンプライアンスが崩れてはいけません。

2については、設備投資や開発投資の成果を上げていきます。25年度は特にバイオ、メディカルの投資効果の実現が遅れたため、しっかりと出していきます。また、セラコン用離型フィルム of 宇都宮工場の新設備の効果も、26年度には数量として出していきます。“コスモシャイン SRF”の投資も、26年度後半から効果を実現していきます。

3の価値に見合ったプライシングの徹底は、今回、コスト上昇に見合ってお客様にお願いをしていますが、ベースとして、価値があるから価格を認めていただけます。全社を挙げて組織的に進めていきます。

そして、先ほど25年度の振り返りの中で、BSに課題があると申しました。事業ポートフォリオ改革の中で課題事業対策を進め、運転資金を圧縮することでCCCを短縮し、資産効率を上げていきます。25年度末はCCCが183日のため、少なくとも10日は圧縮したいと考えています。

投資・経費の絞り込みについては、先ほどの設備投資がピークアウトしたと申しました。25年度にキャッシュ・フローベースで290億円の投資がありましたが、26年度は225億円の予定です。主なものは“コスモシャイン SRF”の改造投資、バイオの一部工程への投資です。TX、いわゆるDXは、生産性を上げるために、工場やスタッフ部門で具体化を進めていきます。

コストダウンについては、全体として25年度には80億円を超える効果があり、26年度も事業環境が不透明ではありますが、70億円以上を積み上げます。

以上がアクションプランです。今は、緊急対策として、中東情勢への対応をワンチーム経営で進めています。

短期的には、調達面など緊急事態への備えとともに、中期的には、調達・物流網の分散化、事業ポートフォリオ改革、財務基盤の強化を進めていく

### 中東情勢の緊迫化によるリスク

#### ●事業環境の変化

- ・原油・エネルギー価格の高騰
- ・サプライチェーンの分断
- ・為替、金融市場の混乱
- ・景気後退、市場縮小

#### ●当社における主要リスク

- ・原燃料コストの上昇
- ・調達、物流網の混乱とコスト上昇
- ・成長投資回収の遅れ

### 対策

#### ●短期対策

- ・情報共有とアクション
- ・サプライチェーン確保（代替ルート確保）
- ・手元資金を厚めに確保
- ・コスト影響の可視化
- ・組織的かつタイムリーな価格見直し
- ・経費、投資の絞り込み

#### ●中期対策

- ・レジリエンスのある事業構造への改革（継続）
- ・調達、物流網の分散化によるリスク影響低減
- ・財務体質の改善

17

具体的には、短期と中期の対策を進めています。まずは情報を共有し、どこに優先的に対応していくかも含め、社内で進めています。中期的にはサプライチェーンの確保ということで代替ルートの確立が必要ですが、まずは、当面の生産に支障をきたさない、お客様に迷惑をかけない考えのもとで進めています。

以上、26年度の業績見通しは未定ですが、今回の決算のご説明となります。ご清聴ありがとうございました。

## 補足

18

## 主な指標の推移

(億円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	実績						
売上高	3,396	3,374	3,757	3,999	4,143	4,220	4,216
営業利益	228	267	284	101	90	167	279
(率)	6.7%	7.9%	7.6%	2.5%	2.2%	3.9%	6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	138	42	129	▲ 7	25	20	112
EBITDA <sup>*1</sup>	398	458	485	291	288	394	525
EPS (円)	155.1	47.3	144.8	▲ 7.4	27.9	22.7	126.7
ROE <sup>*2</sup>	7.8%	2.3%	6.8%	-	1.3%	1.0%	5.5%
ROIC <sup>*3</sup>	4.5%	5.0%	5.1%	1.7%	1.3%	2.3%	3.8%
減価償却費	170	191	201	190	198	227	246
設備投資	364	233	336	427	616	432	290
研究開発費	117	127	138	141	153	143	141
有利子負債	1,751	1,870	1,912	2,294	2,492	2,679	2,610
D/ELシオ	0.98	1.01	0.98	1.21	1.26	1.37	1.22
D/ELシオ (資本性調整後) <sup>*4</sup>	0.87	0.89	0.87	-	-	1.15	1.03

<sup>\*1</sup> 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)<sup>\*2</sup> 当期純利益 ÷ 期末・期末平均自己資本<sup>\*3</sup> NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)<sup>\*4</sup> 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/ELシオ

19

## セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	24年度					25年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	421	407	421	420	1,668	446	419	435	451	1,752
ライフサイエンス	81	91	85	86	343	80	85	83	97	345
環境・機能材	281	272	283	273	1,108	254	253	272	322	1,101
機能繊維・商事	240	239	233	268	981	219	225	218	234	896
不動産・その他	29	31	29	32	120	30	28	28	36	122
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,052	1,040	1,051	1,078	4,220	1,029	1,011	1,035	1,140	4,216

営業利益	24年度					25年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	15	15	8	31	69	40	46	42	38	166
ライフサイエンス	4	5	6	5	20	2	▲ 0	▲ 4	3	1
環境・機能材	13	21	23	23	80	15	16	23	44	97
機能繊維・商事	2	▲ 1	▲ 0	5	5	1	1	4	7	13
不動産・その他	5	7	6	8	26	5	7	7	12	32
消去・全社	▲ 7	▲ 9	▲ 10	▲ 7	▲ 33	▲ 7	▲ 8	▲ 8	▲ 7	▲ 29
合計	31	38	32	65	167	56	62	65	96	279

20

## ご注意

TOYOBO

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

21



© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.